

## 選果場より

10月上旬にミニトマトの出荷量がピークを迎えた選果場でしたが、中旬には一段落つき、下旬からは午前中で選果業務が終わる状況となっております。

ミニトマトについては、抑制の生育期の気温が非常に高く、花が飛んでしまったため、実がならず、10月末の段階で前年より4%ほど収量が少ない結果となっております。

きゅうりは例年10月が出荷のピークであり、今年度は10月末時点でkg単価は昨年よりも2~3割高く推移しています。出荷量は2%増です。

そして今回、きゅうりの選果の様子をご紹介します。きゅうりは大玉トマト同様、機械での選果でなく人の手での選果になります。箱の中には酸化防止のビニールが入っており、写真のように綺麗に並べて梱包されます。曲がりの少ないものを秀品としており、多少曲がりのある優品、○品については、考えて詰めなければ箱の蓋が閉まらなくなります。主に大玉トマトを選果しているパートさんがきゅうりの選果も担当しており、ベテランも多いため滞りなく選果作業が進んでいきます。

今年の選果業務も大詰めとなっております。気温も下がってきてますので体調管理に気を付けましょう。



選果の様子です



上から秀品、優品、○品です。



箱の中身です

## 牧野退牧

### 新ひだか町静内地区川合牧野団地からの退牧

10月29日~30日、新ひだか町静内地区川合牧野団地に入牧していた乳牛75頭が無事、生産者の元に帰りました。

今年度の退牧時の目標として1頭当たり150kg以上の体重増としておりましたが、1頭当たり133kgの体重増となりました。春に気温が低かった影響により青草の量が例年より少なかった為ではありますが、定期的な牛の牧区移動の他に、管理人単独でかなり頻りに牧区移動を行っていただいたことで青草を満腹に食べることが出来、5か月半での体重増としては満足のいく結果となりました。なおホルスタイン種の月平均の体重増は20~25kg程度です。

また、例年、ダニの媒介するピロプラズマ病に感染し貧血状態となり途中退牧を余儀なくされる牛が一定数ありますが、今年度は1頭のみ退牧となりました。ほかの退牧した牛については市場上場や分娩間近であるためです。

そして、受胎率については71%とホルスタイン種の平均受胎率60%を大きく上回っており、昨年同様の好結果となりました。この点については、2~3週間に1回の衛生検査実施による健康状態の把握やダニ除けの薬の塗布、空腹のストレスもなかったことが大きく寄与していると考えられます。



来年も多くの入牧お待ちしております。